

かやまのこ

笠松町道徳教育連絡会議

四月一日の朝のラジオ放送

笠松小に赴任した四月一日の朝六時五十分、ラジオ岐阜で同校の四年生の女の子の「私のサクラソウ」という朗読が流れました。少し長いですが、そのまま引用します。

きよ年の十一月ごろ、学校で一はちにサクラソウのなえを植えました。私は

「サクラソウって、どんな色の花を咲かせるのかな。」と楽しみに思いながら、毎日水やりをしていました。

一月二日の夜、外に出ると、雪がふっていました。

「サクラソウ、だいじょうぶかな。」私は、心配に思いながらも、もうおそかったので、ねることにしました。

次の朝、外は、辺り一面雪がしきでした。私はすぐサクラソウを見に行きました。すると、小さなサクラソウの上にも、雪がどっさりつもっていて、葉っぱがぐったりしていました。私はとっさにサクラソウの雪をはらい落とすと、一はちもって

おばあちゃんの所まで走りまわった。

「おばあちゃん、このサクラソウだいじょうぶ」私は聞きませんでした。

「だいじょうぶだよ。サクラソウは、冬に強い花だから、じきに葉っぱが、キンキンに元気になるから。」

私は、おばあちゃんにそういつてもらってやっと、ほっとしました。

それから私は、「早く元気になるってね。」と声をかけながら



大切に世話をしてきました。…

(以下省略)

「私はとっさにサクラソウの雪をはらい落とすと、一はちもっておばあちゃんの所まで走りまわった。」の所を読んでみると、この子のサクラソウのようにけなげで凜とした姿が目には浮かぶようです。

笠松小では三つの自慢の一つに、「ねばり強く生き物の世話をします。」があり、その取り組みの一つに一人一鉢があります。

この「私のサクラソウ」以外にも十二人の子の朗読が放送されました。学校に行くと、その原稿を読むと、

「わすれないよ」

「命の大切さを知った日」

「ありがとう伏屋先生」とか、どれもが素晴らしい、心打つ作文ばかりでした。

道徳の研究校として、三つの自慢を高く掲げてきた笠松小の子だから書ける原稿。自分にとっても四月一日はとても良い笠松小の子との出会いになりました。

皆で育てた笠松小の道徳。道徳の授業を中核にして、心が育つ取り組みに頑張っていきたいと思えます。よろしくお願います。

笠松小学校 校長 丹羽利国

教育委員会だより

- 夢が膨らむ夏休み -

小学6年生のAさん、今年の夏休みはどんな工作にしようかと、学校から配布されたプリントを見て、迷っています。そこへ、父親がきて、

「A男は、電車を見たり乗ったりすることが好きだから、電車を作ったらどうかな。」とアドバイスをしています。

すると、A男はこんな電車が作ってみたいと、近くにあった広告の紙の裏に作ってみたい電車を描き始めます。しかし、電車の大まかな形は分かるのですが、窓や自動ドア、電灯等の細かな部分、そして、車輪の様子が分からないため、うまく描くことができません。

「お父さん、ここところがよくわからん。電車見たいな。」

そこで、父親は、
「じゃあ、お父さんと一緒に駅まで電車を見に行こうか。」と言うと、A男は、また何枚かの広告の紙と色鉛筆を準備しはじめました。

A男と父親が駅まで歩く途中は工作についての会話がはずみます。窓や電灯、自動ドアの位置や数もはっきりしました。車輪は、前後に4つずつ、合計8つあることや、パンタグラフやいくつかのタンクもあることにも気付き、絵に

することができました。

その後、A男は夏休みに入る前から厚紙や接着剤等を準備し夢中になって製作し始めます。

また、父親が問いかけます。

「よくできているが、何か一つアイデアを加えるといいぞ。」

と話すと、A男は、

「動くドアにしたいけど。」

とつぶやき、さっそくカッターナイフを駆使しながら、動くドアを作り始めます。父親はすぐに手を取り、教えるとはしません。できるだけA男に任せるように、見つめています。そして、ドアとドアを紐でつなぎ片方の紐を引っ張ることによって、ドアが開閉する電車を作り上げたのです。

出来上がった電車には、ひごで作ったレール、行き先が描いてある板までが取り替えができるように、いくつかの工夫がなされていました。

完全学校週5日制になり3カ月が経過しました。休日、家庭内でのちょっとした会話をきっかけに、子どもの夢が膨らんでいきます。

教育電話相談

～悩んだら気軽に電話してください～

羽島郡四町教育委員会 245・1133